

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	九州財務局長
【提出日】	平成25年8月14日
【四半期会計期間】	第35期第2四半期（自平成25年4月1日至平成25年6月30日）
【会社名】	グリーンランドリゾート株式会社
【英訳名】	GREENLAND RESORT COMPANY LIMITED
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 江里口 俊文
【本店の所在の場所】	熊本県荒尾市下井手1616番地
【電話番号】	0968-66-2111
【事務連絡者氏名】	取締役経理部長 渡邊 和雄
【最寄りの連絡場所】	熊本県荒尾市下井手1616番地
【電話番号】	0968-66-2111
【事務連絡者氏名】	取締役経理部長 渡邊 和雄
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） 証券会員制法人福岡証券取引所 （福岡市中央区天神二丁目14番2号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第34期 第2四半期連結 累計期間	第35期 第2四半期連結 累計期間	第34期
会計期間	自平成24年 1月1日 至平成24年 6月30日	自平成25年 1月1日 至平成25年 6月30日	自平成24年 1月1日 至平成24年 12月31日
売上高(千円)	3,647,859	3,889,712	7,635,507
経常利益(千円)	10,903	108,854	205,435
四半期(当期)純利益(千円)	9,556	84,078	127,237
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	7,498	112,172	135,963
純資産額(千円)	10,061,087	10,240,526	10,169,066
総資産額(千円)	21,478,034	21,652,514	21,676,754
1株当たり四半期(当期)純利益金 額(円)	0.94	8.23	12.45
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	46.8	47.3	46.9
営業活動による キャッシュ・フロー(千円)	287,045	289,886	633,148
投資活動による キャッシュ・フロー(千円)	149,561	304,373	371,473
財務活動による キャッシュ・フロー(千円)	181,165	89,764	235,791
現金及び現金同等物の四半期末(期 末)残高(千円)	241,305	206,619	310,870

回次	第34期 第2四半期連結 会計期間	第35期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自平成24年 4月1日 至平成24年 6月30日	自平成25年 4月1日 至平成25年 6月30日
1株当たり四半期純利益金額(円)	9.93	10.84

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。
3. 「潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額」については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において新たに発生した事業等のリスクはありません。
 また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間における当社グループを取り巻く環境は、株価上昇による相場環境の回復もあり、消費意欲が刺激された面も見られました。特に九州の遊園地事業は、春休み及びゴールデンウィーク期間が天候に恵まれたこと、ならびに春に開催した各種イベントが活況に推移するとともに、前年夏に導入した大型遊具が人気を博し、利用者数、売上高を順調に伸ばすことができました。また、九州の遊園地事業においては園内清掃をはじめとする園内管理業務の外部委託を廃止する等、様々な経費節減にも取り組みました。

また、グループ企業再編の一環として、ホテル業に加えて遊園地内で飲食店舗を経営している有明リゾートシティ株式会社と生損保代理店業、商品販売業及び労働者派遣事業を行うグリーンランドサービス株式会社の連結子会社2社の合併を行い、保険代理店業の新たな顧客獲得、商品販売業における冠婚葬祭用商品の売上拡大、さらには遊園地内の飲食店舗と物販店舗との総合的な管理体制の構築による収益向上を図りました。

なお、労働者派遣事業のうち主に遊園地事業及びゴルフ事業において当社へ出向派遣されていた社員は、当社への直接雇用に切り替えることで、個々の意識改革及びスキルアップを促し、顧客へのサービスの質の向上に繋がりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は3,889,712千円（前年同期比6.6%増）となり、営業利益は129,517千円（前年同期比194.8%増）、経常利益は108,854千円（前年同期比898.4%増）、四半期純利益は84,078千円（前年同期比779.8%増）となりました。

	当第2四半期 連結累計期間 (千円)	前第2四半期 連結累計期間 (千円)	増減額 (千円)	増減率 (%)
売上高	3,889,712	3,647,859	241,853	6.6
営業利益	129,517	43,928	85,588	194.8
経常利益	108,854	10,903	97,951	898.4
四半期純利益	84,078	9,556	74,521	779.8

次に、報告セグメントごとの業績は次のとおりです。

遊園地事業

今春、九州の『グリーンランド』におきましては、「仮面ライダーウィザード超魔法伝」と題し仮面ライダーウィザードをメインキャラクターに、期間前半の平成25年3月2日から4月19日の49日間は、平成仮面ライダーが出演する「平成ライダー戦記」を、後半の平成25年4月20日から5月31日にかけての42日間及び6月8日から6月30日までの土・日にかけての8日間は、昭和ライダーが出演する「昭和ライダー戦記」を、6月1日と2日はスーパー戦隊シリーズと共演したスペシャルショーを、ワイヤーアクションを駆使した当遊園地でしか見ることのできないスケールで開催いたしました。さらに、平成25年3月16日から5月6日にかけては、「初音ミクとあそぼうっ！inグリーンランド」と題し、10代20代の男女を中心に人気を集めている「初音ミク」を題材としたイベントを開催するとともに、園内のアトラクションにもラッピングを施し、メインの仮面ライダーショーとは異なる若者層の集客を図りました。その他にも、「スペシャルキッズデイズ」と題し、3月23日に「それいけ！アンパンマンショー」、3月24日に「ワンワンとあそぼうショー」を、5月3日から5月6日にはゴールデンウィーク特別イベントとして「ドキドキ！プリキュアショー」等を開催し、集客に努めました。また、園内清掃をはじめとする園内管理業務を外部委託から当社グループにおいて行うことにより、連携の強化及び精度の高い管理業務の体制を確立しました。その結果、好調なイベントによる集客に加え、天候にも恵まれ春休み及びゴールデンウィーク期間の集客が順調に推移し、利用者数は、前年同期比40,904人増加の433,752人となり、売上高は前年同期比259,035千円増収（+15.1%）1,972,162千円となりました。

『北海道グリーンランドホワイトパーク（スキー場）』におきましては、記録的な豪雪があったものの、スキー利用者数及び売上高は昨年実績並みとなりました。また、『北海道グリーンランド遊園地』におきましては、「国立ポリシヨイサーカス」の開催や、人気キャラクターを起用した「4大ヒーロー&ヒロイン大集合」を開催し、集客に努めましたが、ゴールデンウィーク期間を通じた雨天及び低温による集客減の影響が大きく、5月後半から6月にかけては順調に推移したものの、ゴールデンウィーク期間の落ち込みをカバーすることができず、スキー場と合わせた利用者数は前年同期比7,165人減少の89,793人となり、売上高は前年同期比28,025千円減収（10.6%）の236,302千円となりました。なお、いわみざわ公園管理につきましては、平成25年7月11・12日に岩見沢市で開催の「ばら制定都市会議（ばらサミット）」に向け、バラ園の整備・改善による魅力ある施設作りに取り組みました。

その他、『モピリティおおむた』におきましては、賃借している土地の賃貸人との合意解約により4月30日で営業終了したことに伴い、売上高は前年同期比7,630千円減収（40.6%）の11,171千円となりました。以上の結果、遊園地事業につきましては、利用者数は前年同期比33,739人増加の523,545人となり、売上高は前年同期比223,378千円増収（+11.2%）の2,219,636千円となり、営業利益は前年同期比91,110千円（+55.8%）増益の254,503千円となりました。

ゴルフ事業

『グリーンランドリゾートゴルフコース』におきましては、多彩なイベントを開催するとともに、コース整備においてはホール難易度アップに向けたティーインググラウンドの改修・増設を行いました。また、レストランにおけるテーブルクロスの変更による雰囲気改善やビールオートサーバーの設置、売店におけるくまモングッズの販売の開始等により満足度向上に努めました。更にフロント周りの壁紙の張り替え、指静脈認証式ロッカーの設置を行う等、設備の拡充を行いました。

『大牟田ゴルフ場』におきましては、オープンコンペ等のイベント開催による集客に努める一方、雑木伐採によるクラブハウス玄関前や駐車場景観の改善等の施設面の充実を図りました。また外部予約サイトの利用に加え、自社WEB会員への定期的な情報発信による来場者の獲得やキャディ教育にも力を入れ来場者の満足度の向上に努めました。

『広川ゴルフ場』におきましては、様々なイベントの実施に加え、レディースティーの設置、新規カートの導入、施設内の空調機の取替等により顧客満足度の向上に努めました。

しかしながら、周辺ゴルフ場との競争は一段と激しさを増し、ゴルフ事業につきましては、利用者数は前年同期比2,783人減少の67,120人、売上高は前年同期比27,231千円減収（5.3%）の481,932千円となり、営業損失は前年同期比102千円損失増の8,522千円となりました。

ホテル事業

『ホテルブランカ』におきましては、卒業旅行新プラン等の販売に注力しました。また、レストランにおいては鍋バイキングや土日祝日限定のハーフバイキングを積極的に販売しました。さらに、中庭バーベキューにおいて、日本初となるカップを置くだけで底からビールがわき上がる「トルネードディスペンサー」の設置や新メニューとして骨付きスモークリブ・骨付きスモークターキーを目玉とし集客に努めました。以上の取り組みを行いました。宿泊、食堂部門ともに伸び悩み、売上高は減少いたしました。

『ホテルヴェルデ』におきましては、自社WEBサイト専用のネット予約システムを導入し、客室販売に取り組みました。施設面においては廊下クロスの張り替え及び外壁塗装を行い、明るくきれいな印象を与えることにより顧客満足度の向上に努めました。レストランにおいては、「小袋」で季節感を出したメニューづくりに努め、特に春の期間2カ月限定で販売した「春がご御膳」が好評を博しました。また、「トレヴィ」においてもオーダーバイキングや、定番となったデザートバイキング、婚活パーティー等のイベントを実施し、集客に努めました。婚礼においては披露宴実績のあるお客様からの口コミによる情報拡散や、紹介制度のご案内等による新規顧客の獲得を図りました。一般宴会におきましては、春の歓送迎会をはじめ季節毎のプランの展開や、平子理沙トークショーを開催する等、集客に努めました。以上の取り組みの結果、宿泊及び料飲部門は増加したものの、婚礼や一般宴会が減少したため、昨年実績並みとなりました。

『ホテルサンブラザ』ならびに『北村温泉ホテル』におきましては、地域密着型の営業展開に加え、インターネット予約サイトの充実にも力を入れました。

『ホテルサンブラザ』におきましては、焼酎フェア、カニバイキング、ステーキ食べ放題、中華グルメディナー等のイベントを開催し、集客に努めてまいりました。また、婚礼におきましては、リニューアルした会場による新しいホテルウェディングのPRに取り組んでまいりました。

『北村温泉ホテル』におきましては、温泉会員の特典内容を拡充し、DM発送による宿泊者獲得及び居酒屋・レストランでの新メニュー追加、生ビール飲み放題イベントの開催により集客を図ってまいりました。

以上の結果、宿泊者数は『ホテルヴェルデ』の宿泊者数増加により前年同期比521人増加の43,794人となりましたが、売上高は客単価の減少等により前年同期比41,334千円減収（4.5%）の882,045千円となり、営業損失は前年同期比35,610千円損失増の64,618千円となりました。

不動産事業

不動産事業におきましては、土地賃貸料が前年同期期間と同水準で推移し、売上高は前年同期比171千円増収(+0.2%)の82,864千円となり、営業利益は前年同期比4,590千円(+8.7%)増益の57,549千円となりました。

土木・建設資材事業

土木・建設資材事業におきましては、土木工事における受注額の増加により、売上高は前年同期比87,980千円増収(+75.0%)の205,233千円となり、営業利益は前年同期比28,707千円(+710.7%)増益の32,747千円となりました。

その他の事業

ギフト商品販売業におきましては、売上高が増加したものの、保険代理店業における売上高の減少により全体の売上高は前年同期比1,110千円減収(-5.8%)の17,999千円となり、営業利益は前年同期比4,028千円(-78.1%)減益の1,129千円となりました。

(2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、21,652,514千円(前連結会計年度末比24,239千円減少)となりました。

流動資産

流動資産は、620,928千円(前連結会計年度末比153,400千円減少)となりました。主な要因は、未収入金で61,602千円増加したものの、現金及び預金で101,250千円、受取手形及び売掛金で80,148千円減少したことによるものであります。

固定資産

固定資産は、21,031,585千円(前連結会計年度末比129,161千円増加)となりました。主な要因は有形固定資産の減価償却等で151,681千円減少したものの、土地の購入等で259,249千円増加したことによるものであります。

流動負債

流動負債は、4,688,251千円(前連結会計年度末比135,044千円増加)となりました。主な要因は短期借入金で167,187千円増加したことによるものであります。

固定負債

固定負債は、6,723,736千円(前連結会計年度末比230,744千円減少)となりました。主な要因は長期預り金で104,700千円、長期借入金で106,446千円減少したことによるものであります。

純資産

純資産は、10,240,526千円(前連結会計年度末比71,460千円増加)となりました。主な要因は利益剰余金で43,366千円増加したことによるものであります。

(3) キャッシュ・フローの分析

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、前連結会計年度末に比べ104,250千円減少し、206,631千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は以下のとおりであります。

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果増加した資金は289,886千円(前年同期は287,045千円増加)となりました。これは主に、減価償却費207,964千円、売上債権の減少72,571千円による資金の増加に対し、役員退職慰労引当金の減少42,538千円、仕入債務の減少26,877千円による資金の減少があったことなどによるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果減少した資金は304,373千円(前年同期は149,561千円減少)となりました。これは主に、有形固定資産の取得325,687千円による資金の減少があったことなどによるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果減少した資金は89,764千円(前年同期は181,165千円減少)となりました。これは主に長期預り金の減少104,700千円による資金の減少があったことなどによるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	20,000,000
計	20,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成25年6月30日)	提出日現在発行数 (株) (平成25年8月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	10,346,683	10,346,683	東京証券取引所(市場第 二部) 福岡証券取引所	・権利内容に何ら限定 のない当社における 標準となる株式 ・単元株式数 100株
計	10,346,683	10,346,683	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成25年4月1日～ 平成25年6月30日		10,346,683		4,180,101		4,767,834

(6)【大株主の状況】

平成25年6月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合(%)
西部瓦斯株式会社	福岡市博多区千代1丁目17-1	1,500.0	14.49
西部ガス興商株式会社	福岡市博多区千代1丁目17-1	501.2	4.84
株式会社肥後銀行	熊本市中央区紺屋町1丁目13-5	500.0	4.83
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内1丁目1-2	487.6	4.71
日本コークス工業株式会社	東京都江東区豊洲3丁目3-3	471.5	4.55
西日本メンテナンス株式会社	福岡県大牟田市山上町2-2	330.2	3.19
株式会社西日本シティ銀行	福岡市博多区博多駅前3丁目1-1	260.0	2.51
大牟田瓦斯株式会社	福岡県大牟田市泉町4-5	256.0	2.47
サノヤス・ライド株式会社	大阪市住之江区北加賀屋5丁目2-7	250.0	2.41
九州ガス圧送株式会社	福岡県大牟田市泉町4-5	250.0	2.41
計	-	4,806.5	46.41

(7)【議決権の状況】

【発行済株式】

平成25年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 129,100	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 10,216,800	102,168	-
単元未満株式	普通株式 783	-	-
発行済株式総数	10,346,683	-	-
総株主の議決権	-	102,168	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式(失念株式)が300株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数3個が含まれております。

【自己株式等】

平成25年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
グリーンランドリゾート(株)	熊本県荒尾市下井手 1616番地	129,100	-	129,100	1.25
計	-	129,100	-	129,100	1.25

(注) 上記のほか、株主名簿上は当社名義となっておりますが、実質的に所有していない株式が100株あります。なお、当該株式数は上記「発行済株式」の「完全議決権株式(その他)」に含まれております。

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成25年1月1日から平成25年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
 (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	313,970	212,719
受取手形及び売掛金	259,000	178,852
商品及び製品	43,159	23,291
原材料及び貯蔵品	52,803	44,135
販売用不動産	7,130	7,130
繰延税金資産	18,923	18,266
その他	98,136	157,942
貸倒引当金	18,795	21,409
流動資産合計	774,329	620,928
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	4,626,155	4,512,067
機械装置及び運搬具(純額)	482,309	453,130
土地	14,782,352	15,041,602
その他(純額)	123,858	114,204
有形固定資産合計	20,014,676	20,121,004
無形固定資産		
その他	245,707	245,410
無形固定資産合計	245,707	245,410
投資その他の資産		
投資有価証券	199,079	229,375
繰延税金資産	325,195	305,136
その他	119,044	131,937
貸倒引当金	1,279	1,279
投資その他の資産合計	642,040	665,170
固定資産合計	20,902,424	21,031,585
資産合計	21,676,754	21,652,514

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	79,953	46,996
営業未払金	84,680	90,759
短期借入金	3,920,380	4,087,567
未払金	245,626	221,075
未払法人税等	85,697	93,197
その他	136,869	148,655
流動負債合計	4,553,206	4,688,251
固定負債		
長期借入金	3,209,674	3,103,228
長期預り金	3,536,111	3,431,411
退職給付引当金	13,768	9,056
役員退職慰労引当金	42,538	-
その他	152,388	180,039
固定負債合計	6,954,481	6,723,736
負債合計	11,507,687	11,411,987
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,180,101	4,180,101
資本剰余金	4,767,834	4,767,834
利益剰余金	1,274,342	1,317,708
自己株式	42,247	42,247
株主資本合計	10,180,030	10,223,397
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	10,964	17,129
その他の包括利益累計額合計	10,964	17,129
純資産合計	10,169,066	10,240,526
負債純資産合計	21,676,754	21,652,514

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】
 【四半期連結損益計算書】
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年6月30日)
売上高	3,647,859	3,889,712
売上原価	3,315,606	3,464,098
売上総利益	332,252	425,613
販売費及び一般管理費	288,324	296,096
営業利益	43,928	129,517
営業外収益		
受取利息	109	55
受取配当金	2,414	3,165
受取賃貸料	2,648	2,828
受取保険金	3,401	12,470
助成金収入	4,402	1,865
雑収入	4,222	1,717
営業外収益合計	17,197	22,102
営業外費用		
支払利息	48,658	41,864
雑損失	1,564	899
営業外費用合計	50,222	42,764
経常利益	10,903	108,854
特別利益		
固定資産売却益	2,158	9,073
受取保険金	37,824	58,980
収用補償金	3,882	-
その他	-	8,243
特別利益合計	43,865	76,297
特別損失		
固定資産除売却損	844	1,011
災害による損失	13,511	9,555
廃棄費用	-	5,559
特別損失合計	14,356	16,126
税金等調整前四半期純利益	40,412	169,025
法人税、住民税及び事業税	31,744	79,633
法人税等調整額	888	5,314
法人税等合計	30,856	84,947
少数株主損益調整前四半期純利益	9,556	84,078
四半期純利益	9,556	84,078

【四半期連結包括利益計算書】
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	9,556	84,078
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	2,057	28,094
その他の包括利益合計	2,057	28,094
四半期包括利益	7,498	112,172
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	7,498	112,172
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	40,412	169,025
減価償却費	218,859	207,964
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	-	42,538
退職給付引当金の増減額(は減少)	15,721	4,711
貸倒引当金の増減額(は減少)	2,028	2,614
受取利息及び受取配当金	2,523	3,220
支払利息	48,658	41,864
受取保険金	37,824	71,451
固定資産除売却損益(は益)	1,314	8,062
売上債権の増減額(は増加)	108,064	72,571
たな卸資産の増減額(は増加)	14,446	28,535
仕入債務の増減額(は減少)	35,240	26,877
未払金の増減額(は減少)	11,655	349
未払消費税等の増減額(は減少)	4,236	18,336
その他	22,807	4,162
小計	317,868	387,863
利息及び配当金の受取額	2,523	3,220
利息の支払額	47,902	41,576
保険金の受取額	31,998	12,770
法人税等の支払額	17,443	72,391
営業活動によるキャッシュ・フロー	287,045	289,886
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	2,800	3,000
定期預金の払戻による収入	4,800	-
有価証券の売却による収入	999	-
有形固定資産の取得による支出	156,558	325,687
有形固定資産の売却による収入	2,228	10,380
無形固定資産の取得による支出	-	897
投資有価証券の売却による収入	-	13,200
その他	1,769	1,630
投資活動によるキャッシュ・フロー	149,561	304,373
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	88,000	184,150
長期借入れによる収入	550,000	670,000
長期借入金の返済による支出	690,397	793,409
長期預り金の受入による収入	5,400	-
長期預り金の返還による支出	91,100	104,700
リース債務の返済による支出	2,452	4,873
自己株式の取得による支出	20	-
配当金の支払額	40,594	40,931
財務活動によるキャッシュ・フロー	181,165	89,764
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	43,681	104,250
現金及び現金同等物の期首残高	284,987	310,870
現金及び現金同等物の四半期末残高	241,305	206,619

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

連結の範囲の重要な変更

当第2四半期連結累計期間において、連結子会社でありましたグリーンランドサービス(株)につきましては、連結子会社であります有明リゾートシティ(株)と平成25年4月1日に合併し、消滅会社となったため、連結の範囲から除外しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

偶発債務

保証債務

銀行提携ゴルフローン契約先の会社等の金融機関借入金について、次のとおり保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第2四半期連結会計年度 (平成25年6月30日)
ゴルフ会員権購入資金	11,082千円	9,097千円

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年6月30日)
役員報酬	50,226千円	47,682千円
人件費	123,014	127,740
退職給付費用	3,046	4,742
貸倒引当金繰入額	2,079	2,614

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年6月30日)
現金及び預金勘定	245,005千円	212,719千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	3,700	6,100
現金及び現金同等物	241,305	206,619

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成24年1月1日至平成24年6月30日)

1. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年3月29日 定時株主総会	普通株式	40,871	4	平成23年12月31日	平成24年3月30日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年8月10日 取締役会	普通株式	20,435	2	平成24年6月30日	平成24年9月3日	利益剰余金

2. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成25年1月1日至平成25年6月30日)

1. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年3月28日 定時株主総会	普通株式	40,870	4	平成24年12月31日	平成25年3月29日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年8月9日 取締役会	普通株式	40,870	4	平成25年6月30日	平成25年9月2日	利益剰余金

2. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成24年1月1日至平成24年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント							調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	遊園地事業	ゴルフ事業	ホテル事業	不動産事業	土木・建設 資材事業	その他の 事業	計		
売上高									
外部顧客への売上高	1,996,257	509,164	923,380	82,693	117,253	19,109	3,647,859	-	3,647,859
セグメント間の内部売上 高又は振替高	1,858	10,503	35,759	9,414	5,153	42,648	105,338	105,338	-
計	1,998,116	519,667	959,140	92,107	122,407	61,758	3,753,197	105,338	3,647,859
セグメント利益又は損失()	163,392	8,419	29,007	52,959	4,039	5,158	188,122	144,194	43,928

(注)1. セグメント利益又は損失の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用 140,179千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

当第2四半期連結累計期間(自平成25年1月1日至平成25年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント							調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	遊園地事業	ゴルフ事業	ホテル事業	不動産事業	土木・建設 資材事業	その他の 事業	計		
売上高									
外部顧客への売上高	2,219,636	481,932	882,045	82,864	205,233	17,999	3,889,712	-	3,889,712
セグメント間の内部売上 高又は振替高	1,929	5,568	37,431	8,730	11,742	18,594	83,997	83,997	-
計	2,221,566	487,501	919,477	91,594	216,976	36,593	3,973,710	83,997	3,889,712
セグメント利益又は損失()	254,503	8,522	64,618	57,549	32,747	1,129	272,789	143,272	129,517

(注)1. セグメント利益又は損失の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用 140,444千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額(円)	0.94	8.23
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	9,556	84,078
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	9,556	84,078
普通株式の期中平均株式数(千株)	10,217	10,217

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

平成25年8月9日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議しております。

・普通株式の配当に関する事項

中間配当による配当金の総額	40,870,136円
1株当たりの金額	4円
基準日	平成25年6月30日
効力発生日	平成25年9月2日

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年 8月12日

グリーンランドリゾート株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 佐藤 宏文 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 金子 一昭 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているグリーンランドリゾート株式会社の平成25年1月1日から平成25年12月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成25年1月1日から平成25年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、グリーンランドリゾート株式会社及び連結子会社の平成25年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれておりません。